

# 令和3年度「全国学力・学習状況調査」 ～鳴門市の結果の概要と今後の対応～

鳴門市教育委員会

## 1 はじめに

鳴門市教育委員会より、保護者の皆様をはじめとする市民の方々に、家庭や地域での子どもたちの学習支援や生活支援の改善などについてご理解とご協力をいただくために、今年度の全国学力・学習状況調査の結果の概要をご報告いたします。鳴門市教育大綱の基本理念「ともに学び 育ち合う 共育のまち鳴門」のもと、全ての児童生徒の学力向上のために、学校教育においてはもちろん、家庭や地域とともに今後も取り組んでまいります。

なお、本調査は特定教科・内容及び特定の学年の学力・学習状況調査であり、調査結果は本市の児童生徒の学力全体を評価したものではありません。

## 2 全国学力・学習状況調査について

### (1) 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### (2) 調査実施日 令和3年5月27日（木）

### (3) 調査対象・内容

小学校第6学年児童 13校 381名 国語、算数、児童質問紙調査  
中学校第3学年生徒 5校 360名 国語、数学、生徒質問紙調査

## 3 令和3年度調査の概観

本市の児童生徒の各教科の平均正答率は、中学校国語で全国を上回りましたが、小学校国語・算数、中学校数学では下回っています。2年前と比較して、全国の正答率に対する本市の正答率の割合において顕著な低下は見られませんが、新型コロナウイルス感染拡大にかかる臨時休業期間中に勉強について不安を感じていた児童生徒は6割を超えました。

教科に関する調査から、漢字や計算等の基本的な力は定着している一方、記述式問題への回答が課題であることが明らかになりました。問題の意図を読み取り、思考し、表現していく力、あきらめず最後まで取り組む力の育成が必要です。

教科に関する調査と質問紙調査のクロス集計からは、いわゆる学力（認知能力）を育成するために、それを支える自制心や勤勉性、やり抜く力等（非認知能力）の育成が必要であることがわかりました。

## 4 平均正答率（教科に関する調査）

### (1) 平均正答率（令和元年度・令和3年度）

年度 校種・教科	令和元年度			令和3年度		
	鳴門市(%)	県(%)	全国(%)	鳴門市(%)	県(%)	全国(%)
小学校国語	64.0	63.0	63.8	63.0	63.0	64.7
小学校算数	66.0	65.0	66.6	69.0	70.0	70.2
中学校国語	71.0	70.0	72.8	65.0	65.0	64.6
中学校数学	58.0	59.0	59.8	56.0	58.0	57.2
中学校英語	57.0	57.0	56.0			

※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症に係る学校教育への影響等を考慮し、実施していません。

※令和3年度は、中学校英語の調査は実施していません。

## (2) 各教科における正答率 約80%以上、約40%未満の児童生徒の割合

		小学校国語	小学校算数	中学校国語	中学校数学
正答率約80%以上 国語11問以上 算数・数学12問以上	鳴門市	33.1%	51.7%	33.6%	27.9%
	県	34.4%	53.7%	35.1%	29.9%
	全国	37.1%	53.4%	34.5%	30.5%
正答率約40%未満 国語5問以下 算数・数学6問以下	鳴門市	17.6%	12.7%	9.7%	24.4%
	県	15.9%	11.7%	12.6%	23.2%
	全国	14.39%	11.1%	11.9%	25.1%

### 概要

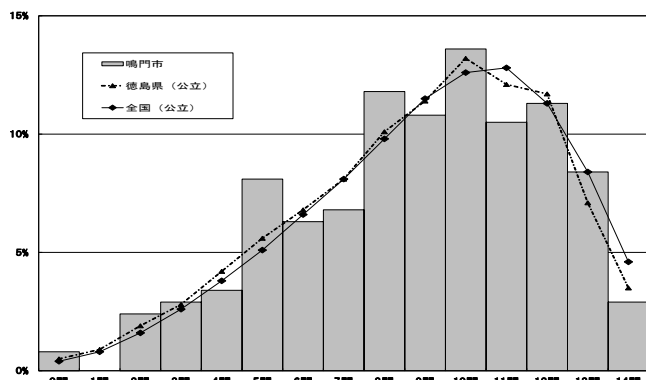
- 小学校算数では、約1割の児童が全問正解しています。
- 中学校国語は、県平均と同等で、全国平均を上回っています。
- 一昨年と比較して、全国平均正答率に対する、本市の正答率の割合に顕著な差は見られません。
- 小学校国語は、県平均と同等ですが、全国平均を下回っています。
- 小学校算数・中学校数学ともに、県平均・全国平均を下回っています。
- 正答率80%以上、40%未満の児童生徒の割合を見ると、中間層が多いことがわかります。

## 5 各教科の成果と課題

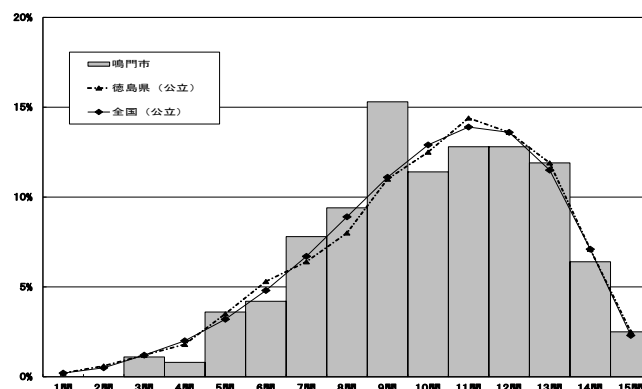
### 【国語】

#### 正答数分布グラフ

**小学校** (横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合)



**中学校** (横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合)



### 課題が見られた問題

問題番号	問題の概要（問題形式）	出題の意図	平均正答率(%)		
			鳴門市	県	全国
② 三	面ファスナーに関する【資料】を読み、メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したかまとめて書く。（記述式）	目的に応じて、文章と図表とを結びつけて必要な情報を見付ける。	33.1	32.7	34.4
② 四	面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く。（記述式）	目的を意識して、中心となる題や文を見つけて要約する。	28.1	28.8	29.7
③ 三 (2) オ	丸山さんの【文章の下書き】の中の——部オで、~~~~部「すぐに」がくわしくしている言葉として適切なものを選択する。（選択式）	文の中における修飾と被修飾との関係を捉える。	40.2	39.2	43.6

中学校			平均正答率(%)		
問題番号	問題の概要 (問題形式)	出題の意図	鳴門市	県	全国
2	一	意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する。(選択式)	23.9	26.2	24.8
3	一	「呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選択する。(選択式)	42.5	42.6	43.7
3	四	「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているか、そのような接し方をどう思うかを書く。(記述式)	17.8	18.9	20.5

### 概要

- 小学校の学習指導要領の内容では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が県・全国を上回っています。
- 小学校では、「思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う」問題、「漢字を文中で正しく使う」問題ができていました。
- 中学校の学習指導要領の内容では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が全国を上回っています。
- 中学校では、「話し合いにおける質問の意図を捉える」問題、「文脈に即して漢字を正しく読む」問題はよくできていました。
- 学習指導要領の内容では、小学校・中学校ともに「話すこと・聞くこと」の正答率が他の内容より高くなっていますが、県・全国よりは低くなっています。
- 「書くこと」については、小学校で3ポイント、中学校で4ポイント、全国を下回っています。
- 小・中ともに記述式の回答の正答率が全国・県を下回っています。資料を読み、条件に合わせて制限された字数内で記述する力に課題が見られます。

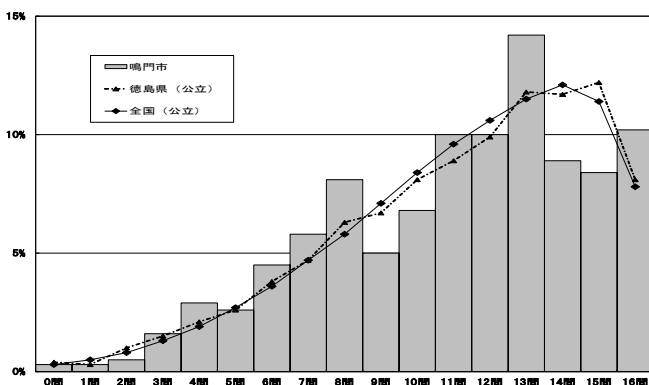
### 改善の方向性

- ・全ての教科の中で、「書く」活動を重視していきます。
- ・「内容」や「文字数」等の条件に合わせて書く日記、作文課題に取り組みます。
- ・文章からキーワードを見つけたり、図やグラフから読み取ったりしたことを文章にする練習を行います。
- ・新聞を読む、読書をする活動から、心に残ったことを、友達と交流をする活動を取り入れます。
- ・目的を明確にした話し合いの活動を重視し、他者と関わりながら自分の考えを明確にし、表現する授業を国語以外の教科でも展開していきます。
- ・要約する力、各段落の役割、文章全体の構成を見る力を育成します。

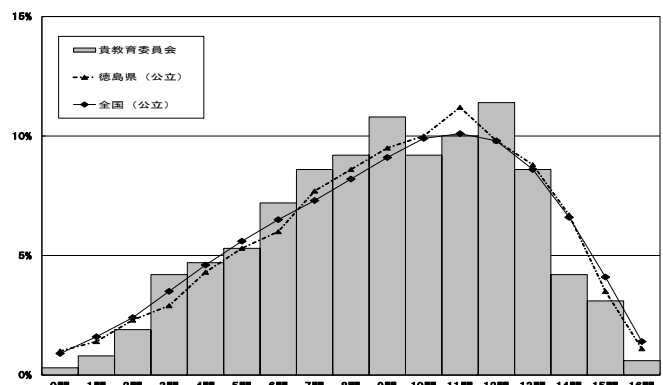
## 【算数・数学】

### 正答数分布グラフ

小学校 (横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合)



中学校 (横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合)



## 課題が見られた問題

小学校			平均正答率(%)		
問題番号	問題の概要(問題形式)	出題の意図	鳴門市	県	全国
1(3)	アとイの2つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ。(選択式)	速さを求める除法の式と商の意味を理解している。	52.0	54.8	55.8
2(2)	直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ。(選択式)	複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる。	67.2	70.8	72.5
3(4)	帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く。(記述式)	帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる。	48.0	49.7	52.0
4(3)	30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く。(記述式)	小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる。	50.4	52.8	51.5

中学校			平均正答率(%)		
問題番号	問題の概要(問題形式)	出題の意図	鳴門市	県	全国
4	経過した時間と影の長さの関係を「 $\cdot$ 」 「 $\cdot$ 」は「 $\cdot$ 」の関数である」という形で表現する。(短答式)	関数の意味を理解している。	43.9	46.0	48.0
6(3)	四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある2つの数の和の2倍であるか説明する。(記述式)	数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる。	23.1	28.1	30.3
7(2)	与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する。(記述式)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。	22.8	27.9	27.7
9(1)	四角形ABCDが平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する。(記述式)	平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができる。	37.8	41.0	44.3

### 概要

- 小学校の学習指導要領の内容では、「数と計算」「測定」は全国を上回っています。
- 小学校では、「二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する」、「棒グラフから、項目間の関係を読み取る」等の問題で県・市を上回っています。
- 中学校の学習指導要領の内容では、「資料の活用」は全国を上回っています。
- 小学校の学習指導要領の内容では、「図形」「変化と関係」「データの活用」は全国を下回っています。
- 中学校の学習指導要領の内容では、「数と式」「図形」「関数」では全国を下回っています。
- 小学校・中学校ともに記述式の問題の正答率が低くなっています。

### 改善の方向性

- ・小学校では、学年に関わらず、具体物を用いて図形概念、組み合わせによる図形の変化と面積等を体感させます。生活の中の「算数」の要素を教師が意識し、学習内容と結びつけた指導を行います。
- ・中学校では、情報量が多い問題を読み取り整理する力、根拠に基づき、見通しを持って考察する力、根拠を明らかにして数学的に表現する力に課題があることをふまえた指導を行います。
- ・途中であきらめるのではなく、自分なりの回答ができるような習慣づくりを行います。
- ・問題解決型の授業実践を大切にします。問題解決法のみを指導するのではなく、「見通しの立て方の指導」「思考の仕方の指導」を推進します。
- ・論理的に説明したり、よりよい考えについて話し合ったりする「対話」を通して、「深い学び」につながるペア学習、グループ学習を効果的に取り入れていくための授業改善に力を入れます。

## 6 児童生徒質問紙調査の結果より

(1) 肯定的な回答(「1. 当てはまる」を選択)の割合が、全国を上回っている項目より

### 小学校

番号	質問項目【 】カテゴリーは、「R3年度全国学力・学習状況調査報告書」(文部科学省国立教育政策研究所)参考	鳴門市 (%)	国 (%)	市一國 (%)
40	あなたの学級では、学校生活をよりよくするために学級会での話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。【学級活動】	42.3	32.3	10.0
28	学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。【ICT】	74.3	66.1	8.2
33	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】	38.3	30.3	8.0
11	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。【規範意識】	91.1	84.1	7.0
12	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。【自己有用感】	82.2	75.4	6.8

### 中学校

番号	質問項目【 】カテゴリーは、「R3年度全国学力・学習状況調査報告書」(文部科学省国立教育政策研究所)参考	鳴門市 (%)	国 (%)	市一國 (%)
43	国語の勉強は好きですか。【国語】	36.1	23.5	12.6
13	学校に行くのは楽しいと思いますか。【達成感】	52.5	43.3	9.2
59	数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。【数学】	66.9	58.0	8.9
26	1、2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか。【ICT】「1. ほぼ毎日」と回答	16.1	7.4	8.7
17	家で自分で計画を立てて勉強していますか。(学校の授業の予習や復習を含む)【学習習慣】	26.4	19.4	7.0

(2) 回答率が全国を下回り、課題と考えられる項目より

### 小学校

番号	質問項目【 】カテゴリーは、「R3年度全国学力・学習状況調査報告書」(文部科学省国立教育政策研究所)参考	鳴門市 (%)	国 (%)	市一國 (%)
4	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。【基本的な生活習慣】「1. 当てはまる」を選択	37.3	38.0	— 0.7
7	将来の夢や目標を持っていますか。【自己有用感】「1. 当てはまる」を選択	59.8	60.2	— 0.4
9	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。【挑戦心】「1. 当てはまる」を選択	23.1	24.4	— 1.3
36	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善】	61.4	62.2	— 0.8
43	国語の勉強は好きですか。【国語】「1. 当てはまる」を選択 ※算数は「1. 当てはまる」が43%(全国比+2.5)	20.7	22.7	— 2.0

### 中学校

番号	質問項目【 】カテゴリーは、「R3年度全国学力・学習状況調査報告書」(文部科学省国立教育政策研究所)参考	鳴門市 (%)	国 (%)	市一國 (%)
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。「1. している」を選択【基本的な生活習慣】	33.3	36.3	— 3.0
10	人が困っているときは、進んで助けていますか。「1. 当てはまる」を選択【規範意識】	35.3	41.6	— 6.3
6	自分にはよいところがありますか。【自己有用感】「1. 当てはまる」を選択	28.6	34.5	— 5.9
24	今住んでいる地域の行事に参加していますか。【地域や社会に関わる活動の実施状況】「1. 当てはまる」を選択	8.9	16.3	— 7.4
60	今回の数学の問題では、解答や言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。【学習に対する興味・関心や授業の理解度等(数学)】「1. 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」を選択	45.8	57.8	— 12

## 概要

- 小学校では、肯定的な回答が全国を上回る項目が多く見られました。特に「学級活動」「ICT」が大きく上回っています。
- 中学校では、「学校に行くことを楽しいと思う」生徒が全国を上回っています。小学校と同様に「ICT」に関しても、全国を上回っています。
- 小学校では、82.2%の児童が「人の役にたつ人間になりたい」と回答しながらも「将来の夢や目標を持っている」児童は59.8%であり、自己有用感に関連する項目が対照的な結果となりました。
- 中学校では、「自分にはよいところがありますか」に対し、「当てはまる」と回答した生徒が全国を下回っています。また、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と回答した生徒の合計が全体の25%であり、自分のよさに気づいたり認めたりすることができない生徒が見られます。

## 改善の方向性

- ・人権教育、キャリア教育、スクールワイドPBS等の取組により、自己有用感を高めていきます。
- ・基本的な生活習慣、規範意識、地域社会との関わりについて、家庭や地域に理解と協力を求めています。
- ・地域のよさに目を向け、ふるさとを大切にできる児童生徒を育てます。

## 7 クロス集計の結果より

### (1) 平均正答率との相関が高い質問項目より

クロス集計で選択肢ごとの平均正答率を比較していますが、調査数が多くないため、ごく少数の回答結果の影響を受けることもあります。このことをふまえた上で、**傾向と改善の方向性を★に示しました。**  
網かけ部分は、各教科の平均正答率が最も高いことを表しています。

#### 小学校

(18)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。	選択肢		平均正答率(%)	
		児童数 (人)	児童数の 割合(%)	国語(14問)	算数(16問)
1	3時間以上	37	9.7	73.2	79.9
2	2時間以上、3時間より少ない	61	16.0	68.5	70.7
3	1時間以上、2時間より少ない	151	39.6	63.4	69.9
4	30分以上、1時間より少ない	78	20.5	58.9	66.2
5	30分より少ない	44	11.5	53.9	62.8
6	全くしない	10	2.6	56.4	55.0

★学習時間が長いと正答率も高くなっています。家庭学習について、家庭と連携を深めていきます。

(21)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。	選択肢		平均正答率(%)	
		児童数 (人)	児童数の 割合(%)	国語(14問)	算数(16問)
1	2時間以上	33	8.7	64.9	68.8
2	1時間以上、2時間より少ない	39	10.2	74.4	76.4
3	30分以上、1時間より少ない	78	20.5	64.6	69.4
4	10分以上、30分より少ない	82	21.5	65.5	69.4
5	10分より少ない	57	15.0	62.9	69.3
6	全くしない	91	23.9	54.0	65.3

★読書の時間が「1時間以上、2時間より少ない」児童が、正答率が高くなりました。全くしない児童とは、国語では約20ポイントの差が見られます。読書習慣を身につけることを推進します。

小学校 続き

(60)	今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方を書く問題がありました。それらについてどのように解答しましたか。				
選択肢		児童数 (人)	児童数の 割合(%)	平均正答率(%)	
				国語(14問)	算数(16問)
1	全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	318	83.5	67.0	73.0
2	書く問題で解答しなかったり、解答を書くのを途中であきらめたりしたものがあった	59	15.5	42.7	50.0
3	書く問題は全く解答しなかった	4	1.0	41.4	34.4

★最後まであきらめずに取り組む児童は、平均正答率が高くなりました。日常的に、課題の工夫、根気よく取り組むような声かけ、最後まで取り組んだことへの評価を行っていきます。

(15)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。				
選択肢		児童数 (人)	児童数の 割合(%)	平均正答率(%)	
				国語(14問)	算数(16問)
1	当てはまる	119	31.2	70.6	75.0
2	どちらかといえば、当てはまる	174	45.7	61.5	67.3
3	どちらかといえば、当てはまらない	73	19.2	57.3	64.6
4	当てはまらない	15	3.9	47.1	63.8

★意見交換を楽しんでいる児童は正答率が高くなっています。様々な教科での意見交換の場づくり、日常生活で交流から学ぶ機会を設けていくことが大切です。

中学校

(5)	普段(月曜日から金曜日)、1日当たり、どれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか。				
選択肢		生徒数 (人)	生徒数の 割合(%)	平均正答率(%)	
				国語(14問)	数学(16問)
1	4時間以上	39	10.8	53.8	46.5
2	3時間以上、4時間より少ない	43	11.9	64.6	54.8
3	2時間以上、3時間より少ない	100	27.8	63.1	52.8
4	1時間以上、2時間より少ない	100	27.8	65.6	57.9
5	1時間より少ない	54	15.0	71.8	65.6
6	全くしない	23	6.4	71.4	62.8

★小学生では、「全くしない」と回答した児童の正答率が最も高くなりましたが、中学生では、「ゲームはするが、だらだらとはしない」等、自らの意思で行動する力が関係していると考えられる結果です。

(8)	自分で決めたことは、やり遂げるようにしていますか。				
選択肢		生徒数 (人)	生徒数の 割合(%)	平均正答率(%)	
				国語(14問)	数学(16問)
1	当てはまる	128	35.6	65.9	57.9
2	どちらかといえば、当てはまる	174	48.3	65.8	57.7
3	どちらかといえば、当てはまらない	53	14.7	60.0	49.3
4	当てはまらない	5	1.4	51.4	40.0

★自分で決める力、やり遂げる力と学力との相関は高いと考えられます。自分で考えて決める過程、結果に関わらずやり遂げたことを評価する教育環境を整え、家庭に呼びかけます。

**中学校続き**

(13)	学校に行くのは楽しいと思いますか。				
選択肢		生徒数 (人)	生徒数の 割合(%)	平均正答率(%)	
				国語(14問)	数学(16問)
1	当てはまる	189	52.5	67.3	58.4
2	どちらかといえば、当てはまる	133	36.9	62.7	56.1
3	どちらかといえば、当てはまらない	25	6.9	64.9	52.5
4	当てはまらない	13	3.6	50.0	35.1

★「学校が楽しいと学習も楽しい、学習が楽しいと学校も楽しい」ということが考えられます。積極的な学習支援、生活支援を続けていきます。

(51)	今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらについてどのように解答しましたか。				
選択肢		生徒数 (人)	生徒数の 割合(%)	平均正答率(%)	
				国語(14問)	数学(16問)
1	全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	234	65.0	69.5	60.9
2	書く問題で解答しなかったり、解答を書くのを途中であきらめたりしたものがあった	117	32.5	56.4	47.8
3	書く問題は全く解答しなかった	7	1.9	45.9	42.0

★小学校でも同様の結果が見られました。最後まで粘り強く取り組む生徒を育てていきます。

**(2) 肯定的回答の平均正答率、否定的回答の平均正答率の差より**

〈分析の方法〉

児童・生徒質問紙の質問項目のうち、児童・生徒個人の学習・生活状況を尋ねた質問項目を取り上げ、分析しました(小学校28項目・中学校28項目)。「5年生までに受けた授業で・・・」「あなたは学校で・・・」等の学校の教育活動に関わる質問は取り上げていません。

各質問項目を比較するために、クロス集計を用い、肯定的回答(例:「している」「どちらかといえばしている」等)をした児童生徒の平均正答率、否定的回答(例:「あまりしていない」「全くしていない」等)をした児童生徒の差を教科ごとに算出し、小学校では国語と算数、中学校では国語と数学の差の合計値を比較しました。

質問項目ごとの差の合計値の大きさが、平均正答率との関係を表していると考え、校種ごとに大きさ順に並べ、校種間に共通する質問項目や校種ごとに特徴的な質問項目等から分析を行いました。

**【小学校 上位10項目】**

- 1 いじめはどんな理由があってもいけない。
- 2 休日の勉強時間2時間以上/2時間未満
- 3 算数の勉強は好き
- 4 国語の学習は社会に出たとき役に立つ
- 5 思ったこと等を言葉で表すことができる
- 6 毎日同じ時刻に起きる
- 7 平日テレビゲーム2時間以上/2時間未満
- 8 平日の勉強時間1時間以上/1時間未満
- 9 算数の勉強は大切
- 10 人の役に立つ人になりたい
- (11) 違う意見について考えるのは楽しい
- (12) 毎日同じ時刻に寝る
- (13) 国語の勉強は大切

**【中学校 上位10項目】**

- 1 友達と協力するのは楽しい
- 2 人の役に立つ人になりたい
- 3 新聞を読んでいる
- 4 人が困っていたら進んで助ける
- 5 朝食を毎日食べる
- 6 学校へ行くのは楽しい
- 7 自分で決めたことはやり遂げる
- 8 平日テレビゲーム2時間以上/2時間未満
- 9 休日の勉強時間2時間以上/2時間未満
- 10 毎日同じ時刻に寝る
- (11) いじめはどんな理由があってもいけない
- (12) 平日の読書時間30分以上/30分未満
- (13) 違う意見について考えるのは楽しい



## 概要

- ・小中学校に共通する質問項目は、「休日の勉強時間 2 時間以上 / 2 時間未満」、「平日テレビゲーム 2 時間以上 / 2 時間未満」【学習習慣・基本的な生活習慣】、「人の役に立つ人になりたい」【自己有用感】等でした。
- ・校種ごとの特徴としては、小学校で「国語、算数が好き・大切・役に立つ」【国語・算数】、「思ったこと等を言葉で表すことができる」が上位であり、中学校では「友達と協力するのは楽しい」、「人が困っていたら助ける」、「学校へ行くのは楽しい」、「自分で決めたことはやり遂げる」等【自己有用感・達成感等】が上位となっています。

## 考察

- ・いわゆる学力（認知能力）向上のためには、小学校・中学校ともに自制心や勤勉性、やり抜く力といった非認知能力に裏打ちされた学習習慣、生活習慣の確立が重要です。
- ・小学校では、学習に対する興味・関心、中学校では他者や社会に対する興味・関心、社会性が学力と関係が深いと考えられます。小学校・中学校ともに「人の役に立ちたい」という志や自己有用感の醸成を目指して取り組んでいくことが重要です。

## 8 新型コロナウイルス感染症の影響

### 小学校 児童質問紙

番号	質問項目	カテゴリーは、全て【新型コロナウイルス感染症の影響】「R3年度全国学力・学習状況調査報告書」（文部科学省国立教育政策研究所）参考	鳴門市 (%)	県 (%)	全国 (%)
64	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか。「1. 当てはまる」を選択		36.7	36.1	29.8
65	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に勉強を続けることができましたか。「1. 当てはまる」を選択		29.1	28.3	29.8
66	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか。「1. 当てはまる」を選択		33.3	32.7	31.6

### 中学校 生徒質問紙

番号	質問項目	カテゴリーは、全て【新型コロナウイルス感染症の影響】「R3年度全国学力・学習状況調査報告書」（文部科学省国立教育政策研究所）参考	鳴門市 (%)	県 (%)	全国 (%)
64	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか。「1. 当てはまる」を選択		40.3	40.5	34.6
65	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に勉強を続けることができましたか。「1. 当てはまる」を選択		10.0	11.6	11.3
66	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか。「1. 当てはまる」を選択		18.6	23.2	21.9

## 概要と改善の方向性

小学校、中学校ともに、臨時休業中に勉強に対する不安を感じていた児童生徒が、全国を上回っています。「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の合計は小学校 66.4%、中学校 68.9%でした。臨時休業中の規則正しい生活については、小学校では全国を上回り、中学校では下回っています。調査結果をふまえ、様々な理由による臨時休業等の不測の事態において、安心して学べる学習支援と生活支援体制の整備と心のサポートを今後も続けていきます。

## 9 今後の取組方針

学校と市教育委員会では次のことを積極的に推進します。

- 本調査の結果と分析から、「学力」を多面的に捉え直すとともに、「学力向上において目指す本市の児童生徒の姿」を明確にし、その具現化を図ります。
- 児童生徒の学力向上につながる学習支援・生活支援の具体的な方法について、学力向上推進委員会、校内学力向上推進員情報交換会、市教委指導主事会で検討し、市全体で取り組んでいきます。
- 本調査の調査結果を各校において分析し、自校の課題を学力向上実行プランに反映します。
- 家庭との連携のもと、学力向上の礎となる基本的な生活習慣の確立を図ります。
- 本市の児童生徒の課題をふまえ、若手教職員研修をはじめとする教職員の研修内容の充実を図り、授業力向上を目指します。
- 目標をもち、あきらめずに努力できる子どもを育成するためのキャリアパスポート用ワークシートを開発をはじめ、自制心ややり抜く力など非認知能力の育成を図ります。
- 就学前教育・保育施設、小・中学校における連携を深め、「学びの継続」を目指して、ともに取り組んでいきます。
- 「学校評価・鳴門プラン」を活用し、P D C Aサイクルを生かした学力向上を図ります。

家庭や地域では次のような取組の推進をお願いします。

- 「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣の定着を図りましょう。
- 時間の使い方について、お子さんとよく話し合い、スマートフォンやゲームの使用時間、学習や読書、運動時間を決定し、望ましい学習習慣、生活習慣の定着を図りましょう。
- 学校行事等に積極的に参加するなど、学校との連携を図りましょう。
- 地域や社会のニュースについて話す機会を増やしましょう。
- 地域行事やボランティア活動への参加を促しましょう。
- 夢や目標について語り合い、物事をあきらめず、根気よく最後まで取り組めるような言葉かけをしましょう。
- お子さんとの会話を大切に、学校や家庭での生活状況の把握に努めましょう。